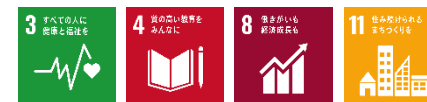


教育委員会側 議題

総合教育会議資料



資料4

誰一人取り残されない 学びの保障

～不登校対策～

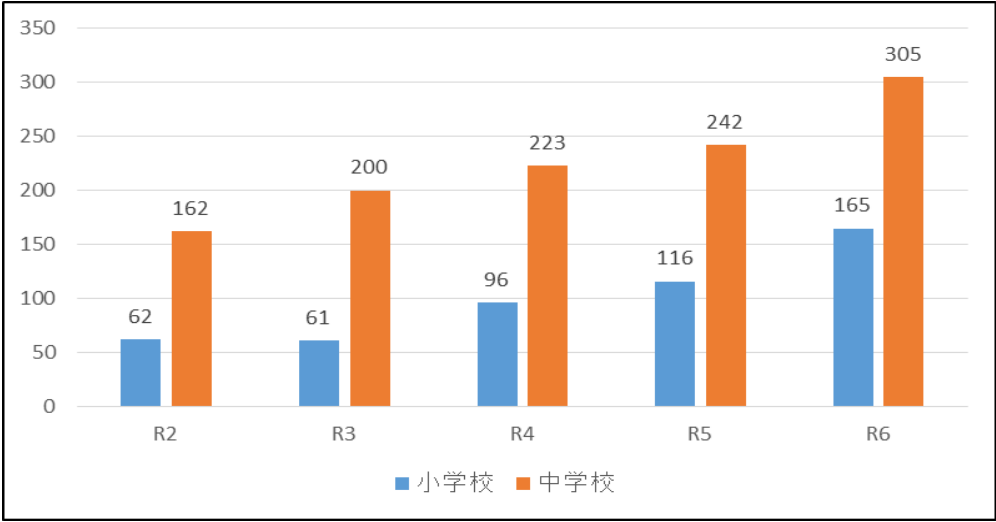
令和7年7月
都城市教育委員会



1 不登校児童・生徒数の推移

本市における不登校及び不登校傾向の現状と推移

● 不登校及び不登校傾向の児童生徒数



	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
小学校	62	61	96	116	165
中学校	162	200	223	242	305
合計	224	261	319	358	470

* 各年度の全児童生徒数に占める割合

* 各年度3月時点

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
小学校	0.7%	0.7%	1.0%	1.3%	1.8%
中学校	3.6%	4.3%	4.8%	5.3%	6.5%
合計	1.6%	1.9%	2.3%	2.6%	3.4%

令和6年度（令和7年3月時点）

小学校	165名
中学校	305名
合 計	470名

増加傾向であり、毎年度過去最多人数を更新



2 現在の不登校支援の施策

- New
- 校内教育支援センター
スペシャルサポートルーム
- スプリング教室
- 青空ラボ(南九州大学)
- 市の公共施設の利用

多様な学び、学習の選択・調整を通して 学びに向かう力、人間性等を育成

- ◆不登校の未然防止◆
○学級以外の安心できる居場所 ○自分のペースで学習や生活
- ◆学校復帰を目指す◆
○生活リズム改善 ○自主学習 ○教育相談 ○スクールスタイル
- ◆自宅から一歩外に出る◆
○コミュニケーション活動 ○興味・関心をもとにした体験や活動

校内での取組

校内教育支援センター
校内の学級以外の居場所

1. スペシャルサポートルーム
(SSR：校内教育支援センター)

校内の学級以外の場所（教室）で、自分のペースで学習・生活できるような支援

① R7. 4月から 2中学校をモデル校
② サポートスタッフ2名配置
※ 4.5h×5日 シフト制で1日をカバー
③ 校内で関係職員との連携

校外での取組

教育支援センター

2. スプリング教室
相 談 拠 点
学校への登校を視野に、学校スタイルをベースとした自主学習中心の支援

① H5. 4月に開設
② 教育相談員（5名）
③ 必要に応じて市のSSW

3. 青空ラボ
コミュニケーションスキル向上を目指した活動中心の支援

① R6. 4月に開設
② 教育相談員（3名）
③ 必要に応じて市のSSW
④ 南九州大学との連携
学生ボランティア・教員

市の公共施設を利用した居場所づくり

4. 図書館（室）、公民館
家から一歩外へでて、社会とのつながりからの支援

① R3. 9月から利用開始
② Mall Mallは相談員対応
※事前の相談が必須
③ 図書室・公民館は
施設職員の協力も検討

各支援施設について

New 校内教育支援センター スペシャルサポートルーム

自分のペースで学習・生活
校内の安心できる居場所で登校支援

安心できる校内の居場所

自分の学級以外で安心して学習・生活できます

- ◆小集団・緩やかな校時程で安心した居場所
- ◆自分のペース・方法で学習を進めることが可能
➡端末の活用(Qubena オンライン オンデマンド)
- ◆教室とは違う雰囲気ですリラックスできる空間
- ◆サポートスタッフが学習サポートや相談対応

校内にあるメリットを生かして

学校への登校の継続を支援します

- ◆学級にいつらさを感じ始めた段階において
安心できる校内の居場所として登校の継続
- ◆学校へ再登校をチャレンジする段階において
学級へのスモールステップとしてお試し登校
➡不登校の改善と未然防止を目指した支援

多様な学び、学習の選択・調整を通して
学びに向かう力、人間性等を育成

◆不登校の未然防止◆

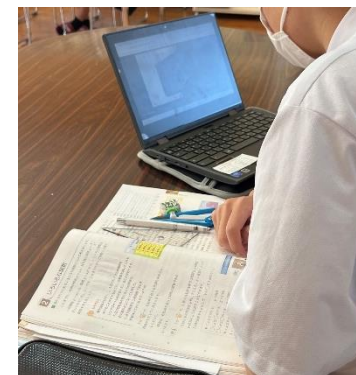
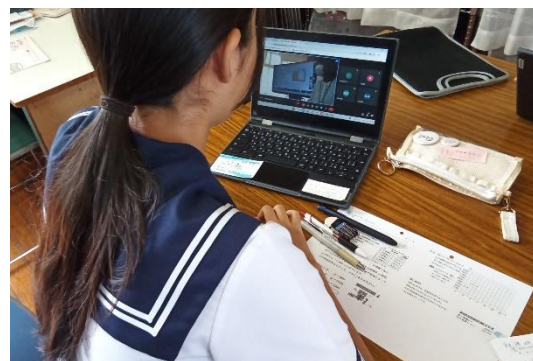
○学級以外の安心できる居場所 ○自分のペースで学習や生活

◆学校復帰を目指す◆

○生活リズム改善 ○自主学习 ○教育相談 ○スクールスタイル

◆自宅から一歩外に出る◆

○コミュニケーション活動 ○興味・関心をもとにした体験や活動



各支援施設について

スプリング教室

スクールスタイル 自主学习
専門的な相談対応で学校復帰を視野に

自分にあった環境で

コツコツ自分のペースで学習ができます

- ◆学習の選択・自主学习による学びの充実
➡端末の活用(Qubena オンライン オンデマンド)
- ◆小集団・静かな雰囲気の中で
自分のペースで安心して学習や生活

次のステップを意識して

社会的自立(学校復帰)を支援します

- ◆制服や持ち物などスクールスタイルを基本に
学校復帰へのスモールステップを支援
- ◆午前・午後の開級で生活リズムを整える

教職経験のある相談員による支援

経験をもとに学習面や進路などのアドバイスが可能です

- ◆児童生徒・保護者との定期的な面談の実施
- ◆元教員による学習・進路等の専門的な相談

多様な学び、学習の選択・調整を通して
学びに向かう力、人間性等を育成

◆不登校の未然防止◆

○学級以外の安心できる居場所 ○自分のペースで学習や生活

◆学校復帰を目指す◆

○生活リズム改善 ○自主学习 ○教育相談 ○スクールスタイル

◆自宅から一歩外に出る◆

○コミュニケーション活動 ○興味・関心をもとにした体験や活動



各支援施設について

青空ラボ

多様な他者との活動や体験の中で
コミュニケーションへの意欲を高める

「やりたい」を大切にしたい多様な学び

体験活動・自主学習など主体的な学びをととして

- ◆教科学習にとらわれず自ら活動を選択
- ◆大学のひと・もの・ことの支援で様々な体験活動

緩やかなフレームで多様な他者との学び

学校スタイルにとらわれない異学年の学びをととして

- ◆様々な他者(相談員・学生・同世代)との関わり
- ◆制服着用や持ち物等のきまりもニーズに応じて
- ◆大学の施設により“学校”の空気感を軽減

年齢の近い南九州大学生の支援による学び

自立に向けた学びを大学生とのかかわりをととして

- ◆学生ボランティアによる支援
➡年齢の近い大学生＝ナナメの関係の支援
- ◆コミュニケーションの中で自己肯定感の高まり

多様な学び、学習の選択・調整を通して 学びに向かう力、人間性等を育成

◆不登校の未然防止◆

- 学級以外の安心できる居場所
- 自分のペースで学習や生活

◆学校復帰を目指す◆

- 生活リズム改善
- 自主学習
- 教育相談
- スクールスタイル

◆自宅から一歩外に出る◆

- コミュニケーション活動
- 興味・関心をもとにした体験や活動



各支援施設について

図書館・公共施設

興味・関心・主体性を生かして
自宅から一歩外に出て社会とのつながり

リラックスしやすい環境

自宅から一歩外に出るを支援します

- ◆学校とは異なるリラックスしやすい空間
- ◆公共の施設で安心して利用できる
- ◆落ち着いた雰囲気での読書や学習で
「また行ってみよう」と次の意欲に

様々なニーズへの対応

各地区にある公共施設のメリットを生かして

- ◆教育支援センターから遠いエリア(旧4町など)
でも自宅から通いやすい場所で支援を
- ◆相談に応じて教育委員会の相談員を派遣
- ◆1人1台端末の利用も対応
- ◆公共施設の専門性を生かした支援
例)シルクスクリーン、ボードゲーム、プログラミング

多様な学び、学習の選択・調整を通して
学びに向かう力、人間性等を育成

◆不登校の未然防止◆

○学級以外の安心できる居場所 ○自分のペースで学習や生活

◆学校復帰を目指す◆

○生活リズム改善 ○自主学习 ○教育相談 ○スクールスタイル

◆自宅から一歩外に出る◆

○コミュニケーション活動 ○興味・関心をもとにした体験や活動



3 保護者の声 (R7.4 実施の実態調査から)

今後の不登校支援に係る政策検討のため

保護者を対象とした、実態及びニーズ把握のための調査を以下のとおり実施

- ・対象者 : 市内の小学校2年生から中学校3年生の保護者(任意)
- ・方法 : Googleフォームによるネットでの回答
- ・調査期間 : 令和7年4月21日(月) ~ 令和7年5月9日(金)

＜主な質問内容＞

- ・学校を楽しんでいるか／つらいと感じているか
- ・昨年度の登校状況
- ・不登校のきっかけ
- ・不登校の時の様子
- ・どのような支援が不登校に必要なか
- ・学びの多様化学校に通わせてみたいか
- ・学びの多様化学校に感じる魅力

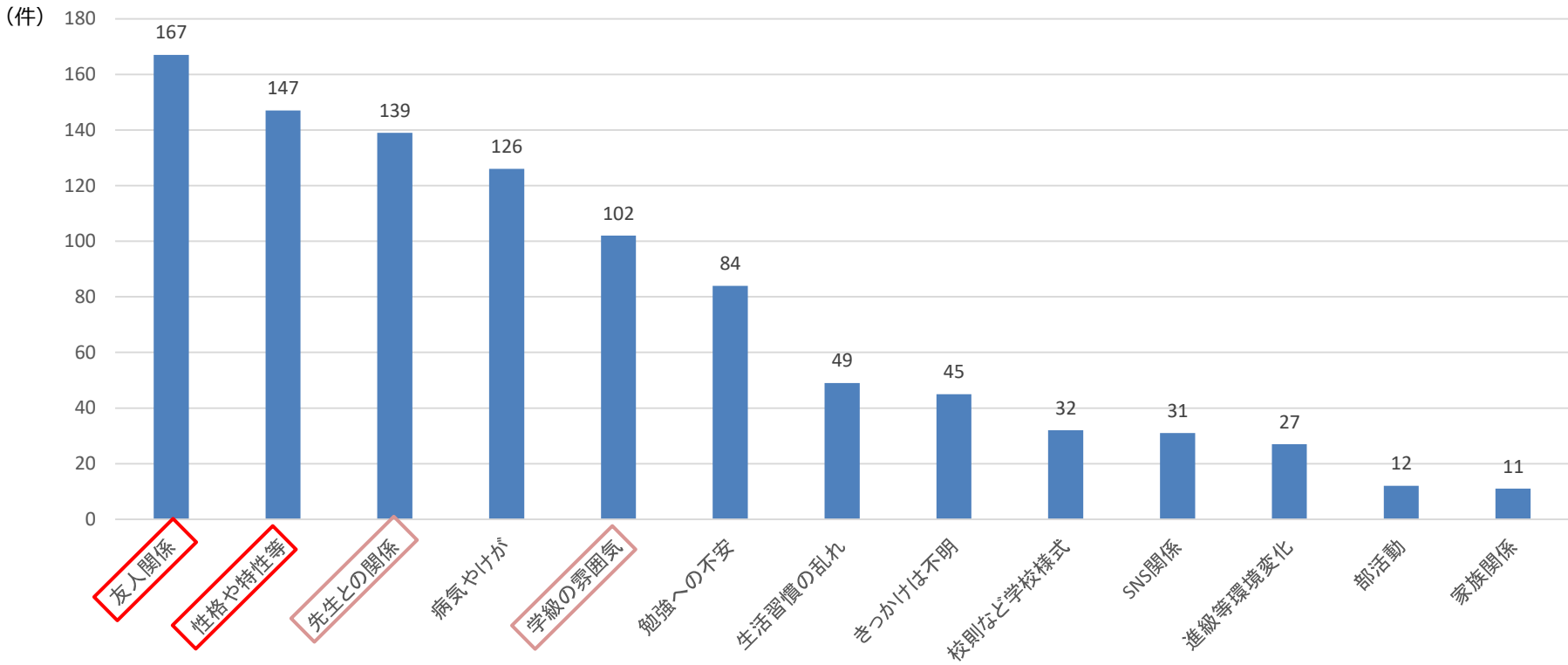
対象児童生徒数・・・小学生7,949名 中学生4,695名 計12,644名

回答保護者数……6,415名 (回答率 50.7%)

※ 任意の回答であるため、設問によって回答保護者数は変わる

3 保護者の声（R7.4 実施の実態調査から）

Q. 休みがちになった主たるきっかけ（568人から972件の回答 ※複数選択可能）

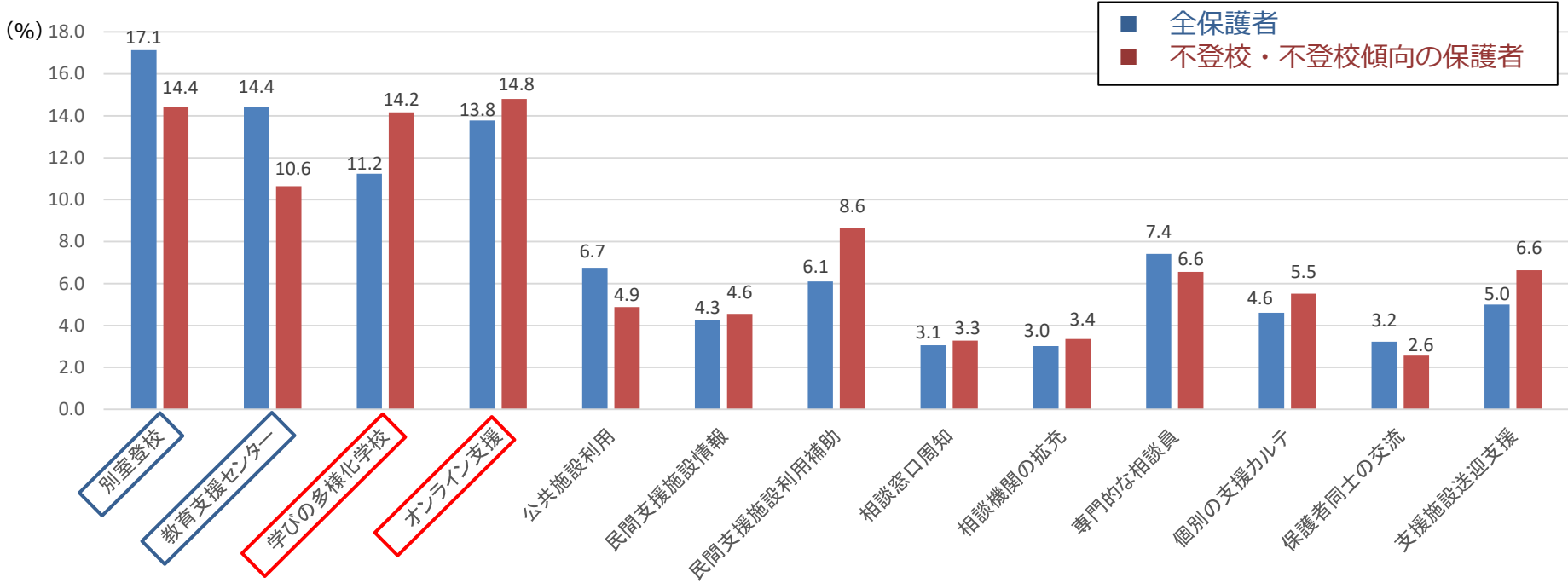


【休みがちになった主たるきっかけ】

- 最も多かったのが「友人関係」で、その他100件を超えたものが「性格や特性等」「先生との関係」「学級の雰囲気」となった。学年による有意差はみられなかった。
- 「学級の雰囲気」「校則など学校様式」「性格や特性等」など、支援の方法として「**環境の改善**」「**学びの場の変更**」が必要になるきっかけも増加している。

3 保護者の声（R7.4 実施の実態調査から）

Q. あるとよいと思う不登校支援（6,309人から19,032件の回答 ※複数選択可能）



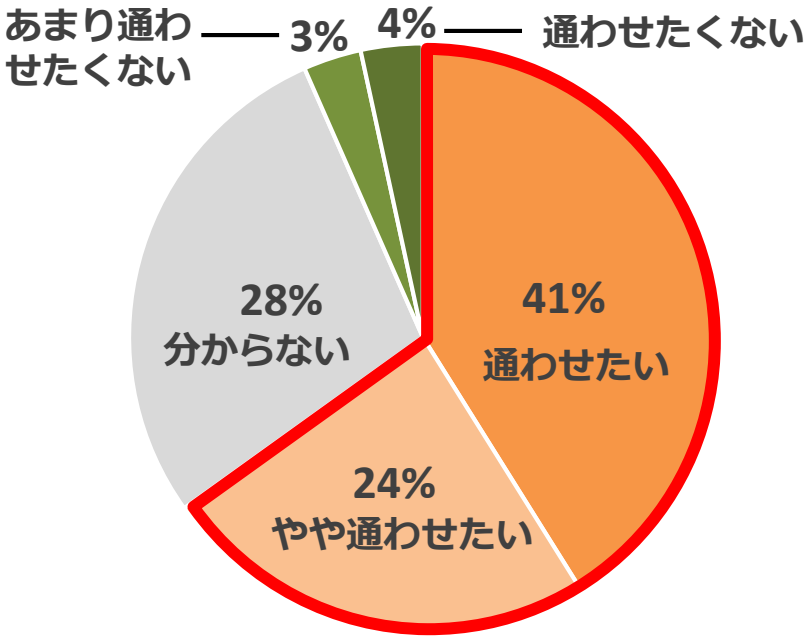
【不登校に関する支援であるとよいと思う支援】

- 「全保護者」の回答をみると「別室登校」が最多の回答となった。
- 「不登校・不登校傾向の保護者」の回答に絞って分析をすると、「別室登校」も多いものの、最多の回答が「オンラインでの支援」となり、「学びの多様化学校」の回答の割合が増加している。

現時点で、不登校・不登校傾向にある家庭の回答をみると、在籍校以外の場所での支援を求める回答数が増えている。様々な理由で在籍校への再登校が難しいと考えているため、学校外での支援を求めていると想定される。

3 保護者の声（R7.4 実施の実態調査から）

Q. もし不登校になったら学びの多様化学校に通わせてみたいか（6,415人のうち6,325人が回答）



【学びの多様化学校に通わせてみたいか】
○「分からない」と回答した保護者も約28%いたが、「通わせたい」、
「やや通わせたい」と肯定的な回答をした保護者が約65%となった。
○学びの多様化学校のどんな点に魅力を感じたかの問いには「本人のペースにあった学習や学校生活ができそう」や、「苦手に寄り添った支援」「今の環境を変えられる」などの声があった。

～ ニーズ調査をとおして ～

- 不登校及び不登校傾向になるきっかけ（原因）は、個々のケースによって多様化していたり、複数のきっかけが重なって複雑化したりしている。
- 支援の方法としては、**未然防止の役割の強い「校内での支援」**のニーズが高いと同時に、不登校及び不登校傾向の状態では、**現在の環境を変化させるような「校外での支援」**を求める声も増えている。また、長期欠席の場合は自宅での**オンライン支援**を求める声もある。

4 今後の方向性

学びの多様化学校 ～令和8年4月の開校に向けて～

**学びの多様化学校とは、不登校児童生徒の実態に配慮して
特別の教育課程を編成し、教育を実施する学校**

※ 学校教育法施行規則第56条 及び 義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律第8条～第13条

柔軟な教育課程

- ◆年間総授業時数(中学校は各学年1015時間)を2～3割削減できる → 1日4時間授業
- ◆学習指導要領にない特色ある教科を新設できる → 学び直し 美術や音楽を合わせた芸術

心理的安全性の担保

自己肯定感の高揚

緩やかなフレームの学校生活 (先進事例から)

- ◆登校9:30、下校15:00 ◆1クラス10名程度の少人数 ◆専属の相談員の配置
- ◆制服等の校則の弾力化 ◆個人の学習や生活のペースを尊重 ◆プレイルーム設置

社会的自立への自信

【学びの多様化学校開校に向けて進捗状況】

6月議会 南九州大学内の設置に関して設計委託、検討委員会に係る予算を提案
7月中旬 「不登校支援あり方検討委員会」で基本方針やコンセプト等を検討開始

- ◆転校・入学により環境を変え、個人の学習のペースや特性等に応じた教育課程で学びの保障ができる。
- ◆緩やかなフレームの学校ではあるが、県の教員人事配置により授業や学校生活の充実が図れる。
- ◆転校・転入が関わるため、本人の状態が学びの多様化学校に適しているかを判断する必要がある。
➡ SSR・教育支援センター・オンラインの整備を同時に進め適切な学びの場の提案が重要になる。

4 今後の方向性

SSR（スペシャルサポートルーム）～モデル校の検証を生かして～



SSR（スペシャルサポートルーム）

- 校内の学級以外の場所（教室）で自分のペースで学習・生活ができる
- 自分のペースや方法で学習を進められる
- 教室とは異なる落ち着いた空間で過ごせる
- 専門スタッフによる学習サポートと相談対応

令和6年度、県のモデル事業として
妻ヶ丘中学校で実施



令和7年度、市の事業として実施
モデル校：妻ヶ丘中 山田中

生徒「安心して登校できる」
保護者「この教室のおかげで
不登校になっていない」

支援員を配置することで
利用者が約5倍に増

- ・大規模校と中山間地域でのモデル検証
- ・市独自でSSRのサポートスタッフを配置

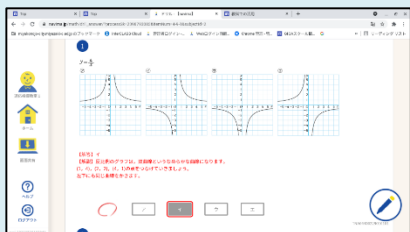
- ◆ 校内での支援は、現在、登校はしているものの不安を抱える本人・保護者のニーズにマッチする支援。
- ◆ 学級以外に安心できる学びの場が学校にあることや、支援員がいつも常駐していることは、登校や学習への安心感が増すため、不登校の未然防止策として効果が高い。
- ◆ 市内の不登校の実態に応じて、意図的・計画的に支援員を配置するSSRの拡充が求められる。

4 今後の方向性

オンライン支援 ～一人一台端末・デジタル × 新たなオンラインの支援～

AIドリル (Qubena)

- 苦手科目も遡って学習可能
- 習熟度に合わせAIが出題



オンライン学習

- 学級での授業やホームルーム等を配信し、全ての不登校児童生徒の学びを保証



今後の新たな支援策

オンライン支援

- オンライン会議システムを使って、双方向でのコミュニケーション
- 学習への興味・関心を高める内容を配信し「学びとのつながり」を支援

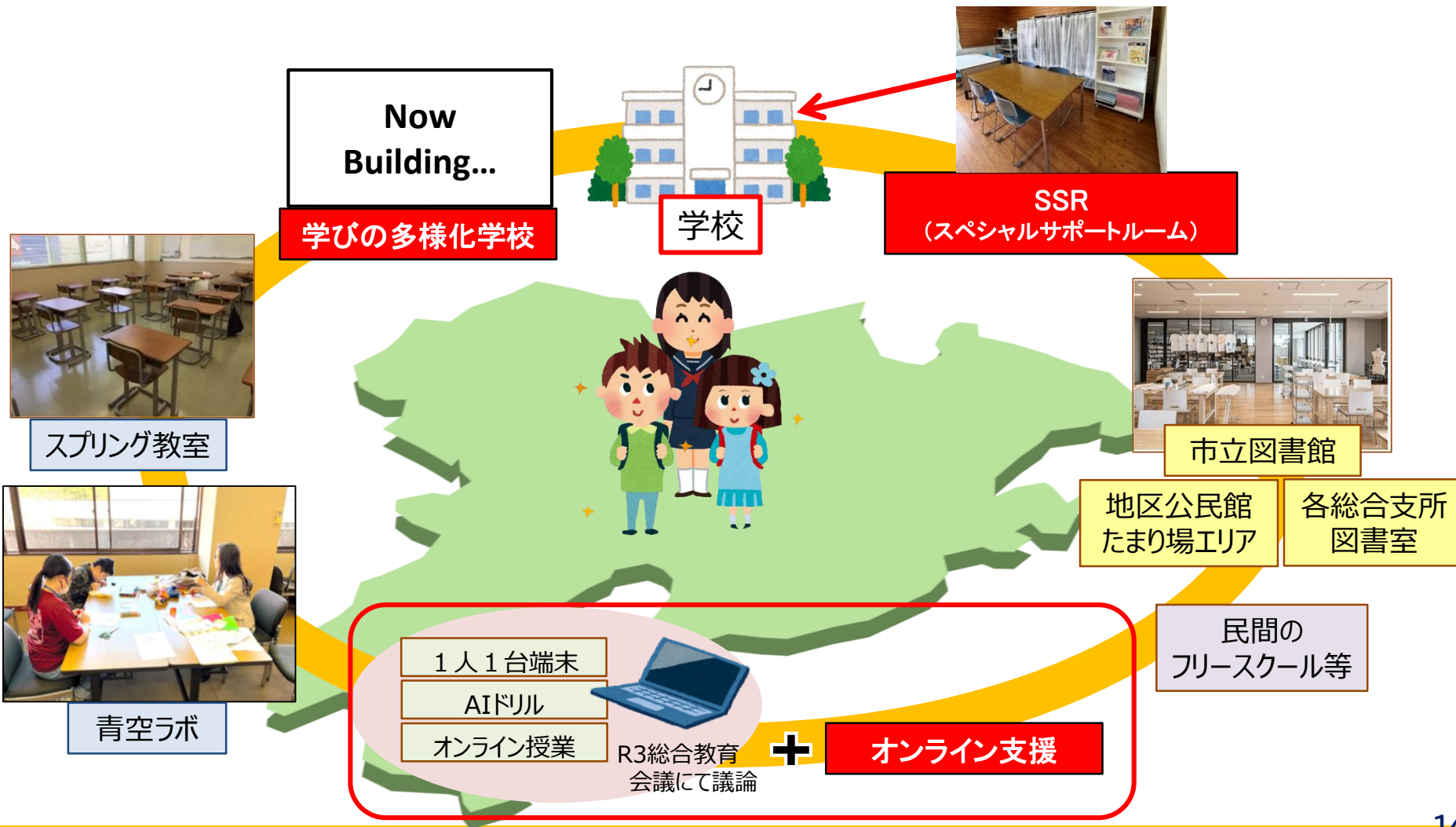


<先進地熊本市のオンライン支援の様子>

- ◆ 不登校状態が長期化している本人・保護者からのニーズにマッチする支援。
- ◆ 一歩外に出ることが難しい状態でもオンライン支援により「学ぶこと」や「人と関わること」への意欲の向上が図れる。
- ◆ オンライン支援における効果的な支援方法やプログラム開発を早急に進める必要がある。

4 解決の方向性

学びの場の選択肢を増やし「誰一人取り残されない学びの保障」を





幸せ上々、みやこのじょう

日本一の肉と焼酎、とっておきの自然と伝統

都城市_教育委員会
教育総務課 学校教育課